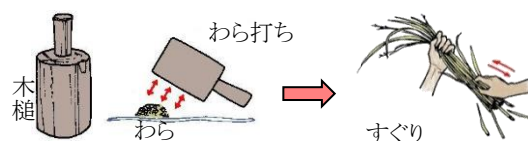


1. 活動概要 稲作が生活の中心だった頃、「わら」は生活用品や運搬具、祭り、儀式などに用いられる大切なものでした。しかし現在では日常生活で 사용되는ことはほとんどなく、身近な「わら製品」は正月飾りや神社のしめ縄、畳床、むしろなどに見られる程度となりました。
- この活動を通して、日本文化の伝統技術の一端に触れると共に、自然の材料から作られるものは、環境や人の体に優しいものであるということを実感できます。

2. 活動場所 体育館、生活体験の家、サービスセンター など

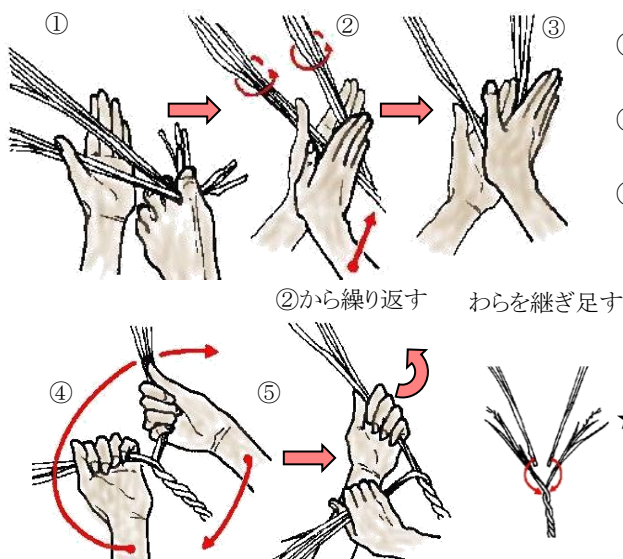
3. 所要時間 団体の裁量による



4. 準備 準備や指導は、各団体でお願いします。

稲の茎を干したものを「わら」と呼びます。しかし、稲刈り後の「わら」はそのまま「わら細工」には使えません。下準備として、事前に「わら」をすぐり、さや葉や葉をきれいに取り除き整え束ねます。その後、「わら打ち」をして適度に「わら」をしなせ、加工しやすくします。

5. 活動内容 縄を作ることを“なう”と言います。“編む”や“組む”との違いを見つけてみましょう。



- ①わらを4本ずつ2組手に取る。
(太い縄を作る場合はわらの本数を増やす)
- ②わらの端を足裏で押さえ、2組のわらの先を手の平で挟む。(利き手を上にする)
- ③利き手を前に出し、手の平をこすり合わせ2組のわらをそれぞれ同じ方向に縊(よ)る。
- ④前方に出した手で外側のわらを内側に移動させる。
(1目分の縄ができる)
- ⑤ ③と④を繰り返すと縄ができる。
(縄からはみ出したわら屑はハサミで切り取る)

★長い縄をなう場合

上の方法では、縄は「わらの長さ」のものしかできません。最初のわらを“ない終わらない”間に、わらを追加していくと長い縄ができます。縄の継ぎ目が太くなりやすいので注意します。

★3人で協力して縄をなう ー簡単な方法ー

- ①わらを4本ずつ2組手に取り、1人が2組のわらの元、他の2人が1組ずつわらを持つ。
- ②2人が同じ方向にわらを縊る。(2人で縊るバランスや強さ、太さを合わせる)
- ③少し縊ったらそのまま2人でわらを交換し合う。(交換して縊る方向は②と反対方向)
- ④ ②と③を繰り返して行く。

★「わら」から作られるもの

生活用品 : 縄／着る物(かさ・みの)／履き物(ぞうり・わらじ・わらぐつ)／包み・入れ物(俵・かます・酒樽・納豆)／敷物(畳・むしろ)／祭り・儀式(しめ飾り)／紙(わら半紙)

その他 : 家畜の飼料／作物の肥料／燃料 (縄やわら細工に使ったものも使用)